SOS 子どもの村
JAPAN
すべての子どもに愛ある家庭を

SOS子どもの村

家族支援ツールガイドブック

Family support tool guidebook by SOS Children's Villages Japan

もくじ

1. このガイドブックについて（P.02）
2. SOS子どもの村の在宅支援（P.03）
3. 家族のニーズと強みにもとずくアセスメント（P.04）
4. 家族のニーズと強みにもとづく支援プラン（P.05-07）
5. アセスメントシートの記入法（P.08-13）
6. アウトリーチで使えるツール（P.14）
7. 課題と展望（P.15）
8. ダウンロード資料（P.15）

1 このガイドブックについて

●高まる在宅支援のニーズ

わが国の子どもの虐待相談件数は、19万件を超え（2019年速報値）、現在、児童相談所の虐待対応の強化、一時保護所の改革、市区町村の家族支援機能の強化として「子ども家庭支援総合拠点」の整備や児童家庭支援センターの増設、ソーシャルワーカーなどの人材強化が全国的な課題として取り組まれており、また、子どもの短期預かりであるショートステイの強化も進められています。

●家族のアセスメントと支援の質の向上の課題

このように在宅支援のニーズが高まる中で、市区町村は、定期的な人事異動により支援ノウハウの蓄積の難しさや、分野の異なる領域からの異動により、支援の質を一定に保つことが難しいと言われています。同じく在宅支援を担う児童家庭支援センターの多くは児童養護施設や乳児院等に附置され、施設で子どもの養育を担っていた職員が、家族を包括的にアセスメントし支援する視点を持たないまま家族支援の担当になる例もあると言われています。

家族支援の現場では、各支援機関のあり方や支援者の経験や力量により、アセスメントがかわり、家族のどこにアプローチするのかの視点がかわってくることもあるため、様々な機関で共通に活用できる共通アセスメントツールの開発とともに、それに基づく支援プランを立てることができる人材の養成が不可欠です。

本アセスメントツールは、市区町村や児童家庭支援センターなどの相談事業を行う関係者間でアセスメントを共有しながら支援をしていくためのツールとして活用され、またツール活用を通して支援者のアセスメントと支援の質の向上を図ることが期待されています。

●家族の「強み」と「ニーズ」に焦点をあてた
アセスメントと当事者参画の支援プラン

SOS 子どもの村では、2017 年より、SOS 子どもの村インターナショナルにおける家族支援プログラムのアセスメントシートの翻訳に取り掛かりました。その後、虐待リスクや家族のネガティブな側面にばかり焦点を当てるのではなく、「家族の強みとニーズ」に注目し、アセスメントにもとづく具体的で計画的な支援や「当事者である家族とともに」支援プランをつくることにより、家族をエンパワメントすることが重要であると考え、2018 年の大和証券「輝く未来へ こども応援基金」の助成を機に、支援の質の保障をめざすための新たなアセスメントツールの開発を行うこととなりました。

今回開発したアセスメントツールは、SOS 子どもの村インターナショナルのアセスメントシートや、在宅支援共通アセスメント・プランニングシート（2018）を参考にしながらも、支援経験がない方でも記入しやすく、視覚的に家族の持つ力を把握することができ、それをもとに「強みとニーズを活かした」支援プランが作成できることをめざしました。開発後は、当法人が運営する福岡市子ども家庭支援センター「SOS 子どもの村」や区役所などの関係機関とともに試行をしました。

このたび開発した家族アセスメントシートは、特に、複雑で重層的な課題を抱える家族への包括的な支援を考える時に活用していくことをめざしています。多くの皆さまからのご意見をいただきながら、子どもと家族を支えるツールに仕上げていきたいと考えています。

また、私たちは同じ助成事業の中で、通所相談が難しい出産直後の親子や多子家庭で余力のない家庭へのアウトリーチ支援もはじめました。通所が困難な家庭はそれだけでハイニーズ・ハイリスクであることも多く、アウトリーチによって可能な支援とは何かを模索してきました。その中で、子どもとの信頼関係を築いたり、親子関係を再構築するために活用してきたツールも併せて紹介したいと思います。

2 SOS子どもの村の在宅支援

SOS 子どもの村 JAPAN は、2010 年から里親制度を活用した家庭における代替養育と里親家庭への支援を行う「子どもの村福岡」を運営しています。
さらに、2013 年には福岡市から委託を受け、地域で困難を抱えた子どもと家族への支援を担う、福岡市子ども家庭支援センター「SOS子どもの村」を開設しました。当センターでは、国連子どもの権利条約に基づき、家族分離を防止するために子どもと家族を支援する際、以下のような視点をもって子どもや家族と関わっています。

●子どもの権利にもとづいて　Children's Rights Based

権利条約の 4 原則でもある、子どもが差別されることなく、子どもの意見を尊重しながら、生きる権利・育つ権利を守り、常に子どもの最善の利益を追求することを大切にしています。また、子ども自身が権利侵害に対する意識を持つことも大切と考え、センターに来た子どもと家族には権利条約を紹介するリーフレットを渡し、以下（右下）のような説明をします。

●子どもの声を聴きながら　Children's Views & Voices

センターでの支援は常に子どもの声を聴きながら行われます。親子別々に担当者がつき、子どもが自分の気持ちや意見を言葉で表現できない時には、絵や遊びを通して表現できるようにサポートします。

●子どもと家族とともに　Partnership

まずは、子どもと家族の意向や、これまで行ってきた工夫や努力を尊重します。そして、発達検査や心理検査の結果を含むアセスメント結果は子どもも含めて家族と共有します。検査結果は、子どもの理解力に合わせた内容にして伝えます。

●子どもと家族が参画する　Participation

専門家が一方的に問題を指摘し助言するのではなく、問題の答えやヒントは子ども自身や家族の中にあると考えます。子どもと家族の力を信頼し、関係者協議には、子どもも家族も参加します。子どもと家族の困りごとを関係者や支援者が共有し、これからの支援を一緒に考えていきます。

●センターに来た子どもに最初に伝えること

私たちは子どもの年齢に合わせた表現にしながら、以下のことを必ず子どもに伝えます。

・「ここでは、あなたが一番大事な人です」

・「あなたに関ることはすべて、あなたの意見を聞いて決めます」

・「あなたが安心して生活し、なりたい自分になれることを、
　家族と一緒にお手伝いします」

・「あなたの情報は、法律に則って適切に扱うので、安心してください」

・「すべての子どもは【子どもの権利条約】で権利が保障されます」

・「私たちはご家族と一緒に、あなたの成長をお手伝いします。
　でも、嫌な時や、納得がいかない時は No と言ってください」

3 家族の強みとニーズにもとづくアセスメント

1 SOS子どもの村　家族アセスメントシートの特徴

① 肯定的な視点でアセスメント

「子どもの力」「基本的養育力」「親子関係」「暴力を使わないコミュニケーション」「心理社会的安定」「しつけ･教育」の 6 項目で構成されます。項目ごとに、何を見ていくのかを「～している」「～に支障がある･･･(ネガティブ要素) がない」という肯定文で行動を表現することにより、 強みを見つけようとする姿勢を持ちやすくなります。

② 視覚的に「強み」と「ニーズ」を把握

ビジュアルスケールを用いて、10 段階でチェックします。ハイリスクのチェック項目も設け、複数のチェックが入った場合にはハイリスクであることに注意します。スケールの右側に✔が付けば「強み」、左側に✔がつけば「ニーズ」と、✔の集まり方・ばらつき方でも家族の特徴が見えてきます。

③ 支援効果も視覚的に確認

重層的で複雑な課題を抱えた家族ほど、支援の効果や家族のいい変化がわかりにくいことがあります。そこで、一定期間支援した後にビジュアルスケールでチェックを行うと、支援前と支援実施後でどの程度変化があったのかを確認することができます。

2 アセスメントシートを使うとき

① 数回のインテーク面接を行った時点で支援者がつけます。

② 中等度以上の困難ケースや状況が複雑なケースで支援者の整理のために使用します。

③ ３か月後、半年後など、支援期間を設定して評価のために使用します。

【アセスメントシート 一部例】

●家族の強みとニーズアセスメント（支援者記入）

保護者氏名（　　）・子どもの名前（　　）　担当者（　　）

記入日　支援前（✔）　　年　月　日　支援後　①（〇）　　年　月　日

①ニーズか強みにどの程度該当するか、右記のスケールに✓をする。支援後は、〇で再記入する。
②★項目のニーズが高い（4以下）項目が複数ある場合はハイリスクの可能性に注意する。
③非該当・未確認の場合は「非・未□」欄に☑をつける。
④高ニーズ、高ストレングス（強み）の項目は、場面、頻度、程度などの具体的内容を特記事項に記載する。

	Ⅰ. 子どもの力		まったくない=0、時々ある=5、日常的にある=10 No（ニーズ）　（強み）Yes	ハイリスク？？
(1)★	日常生活や学習面に支障のある、知的発達の偏りや特性（言葉での理解・コミュニケーションの苦手さ、視覚認知の不器用さ、興味関心の偏り、衝動性、注意散漫さなど）がない	非該当 未確認 □	0 5 ✔ 10	□
(2)★	家族との良好な人間関係がある	非・未 □	0 ✔ 5 10	☑
(3)	友達との良好な人間関係がある	非・未 □	0 5 ✔ 10	
(4)	日常生活や学習面に支障のある身体疾患や身体的不器用さがない	非・未 □	0 5 ✔ 10	
(5)	年齢に応じたソーシャルスキルが身についている	非・未 □	0 5 ✔ 10	
(6)	情緒・行動上の問題（激しいかんしゃく、精神不安、万引き、金品持出など）がない	非・未 □	0 ✔ 5 10	
(7)	養育者以外の安心して頼れる大人がいる（保育士、担任、近所の人、親戚など）	非・未 □	0 ✔ 5 10	
(8)	国籍、宗教など、自分の文化的アイデンティティを受け入れている	非・未 ☑	0 5 10	

特記事項	ニーズの高いものや、注目すべき強みについて、状況や頻度などを記載してください 〇月から家族関係がさらに悪化 学校での適応はよく、友人関係は良好。中1、小6の子どもは実父からの暴力を受け、MoへのDVも目撃している。

4 家族の強みとニーズにもとづく支援プラン

アセスメントシートに記入後に、支援プランを立てる際に用いるシートです。

●家族の強みとニーズにもとづく支援プラン（支援者記入）

記入日＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日

記入順

養育者氏名（　　）子どもの名前（　　）担当者（　　）

4 家族のテーマ

「～の問題を抱えた･･･な家族」「～な家族の･･･のケース」のような、20字程度で家族の特徴を捉えた家族のテーマを考えよう

3

おおきな目標：1～3年後に「こうなったらいいな」と思う家族の状態

ちいさな目標：3か月後に「こうなったらいいな」と思う家族の状態

養育者の目標

子の目標

1

A.家族の強みはどこか？ すでに持っている資源は？

どんな生活スキルはあるのか、誰とつながっているのかなど具体的に書いてみよう

B.家族のニーズはどこか？ 家族の困り感が高いもの、支援者から見てニーズがあると感じるものを具体的に書こう

a.その要因は何か？（強みを支えているものは何か?）

「強み」に✔してある項目が、別の「強み」を支えていないかもみてみよう

b.その要因は何か？ 「ニーズ」に✔がついている項目が要因になっていないか？何によって8のニーズが起こっているのかを考えてみよう

C.ニーズはあるが、その中にある強みはなにか？ 小さいけれどできてるエピソードに注目してみよう

2

「強み」を活かす・増やす支援

養育者

子ども

「ニーズ」を減らす･増やさないための支援

養育者

子ども

安心スケール

要家族分離←　　→分離不要

0　5　10

5

リスクのサイン

リスク増大時の対応

1 支援プランシートの特徴

①「家族のテーマ」をつける

家族の問題や特徴を端的に表現するテーマをつけるには、家族のニーズや強みをしっかりと把握する必要があります。

② ニーズの中にあるポジティブな側面（強み）に注目

ニーズが高い項目の中でも、小さいけれどできている部分があることもあります。厳しい状態の中にもある強みに注目することは、支援のヒントにもつながっていきます。

③ ニーズと強みにもとづく支援プラン

どのような要因で「ニーズ」や「強み」になっているのかを考えながら、「強みを活かす・増やす支援」と「ニーズを減らす・増やさない支援」を検討します。家族分離の必要まではないが、課題が複雑で大きな変化を望めず、現状維持をしながら子どもの自立を目指すようなケースの場合には、「ニーズを増やさない」支援が必要なことがあります。

④ 家族分離のリスクもシミュレーション

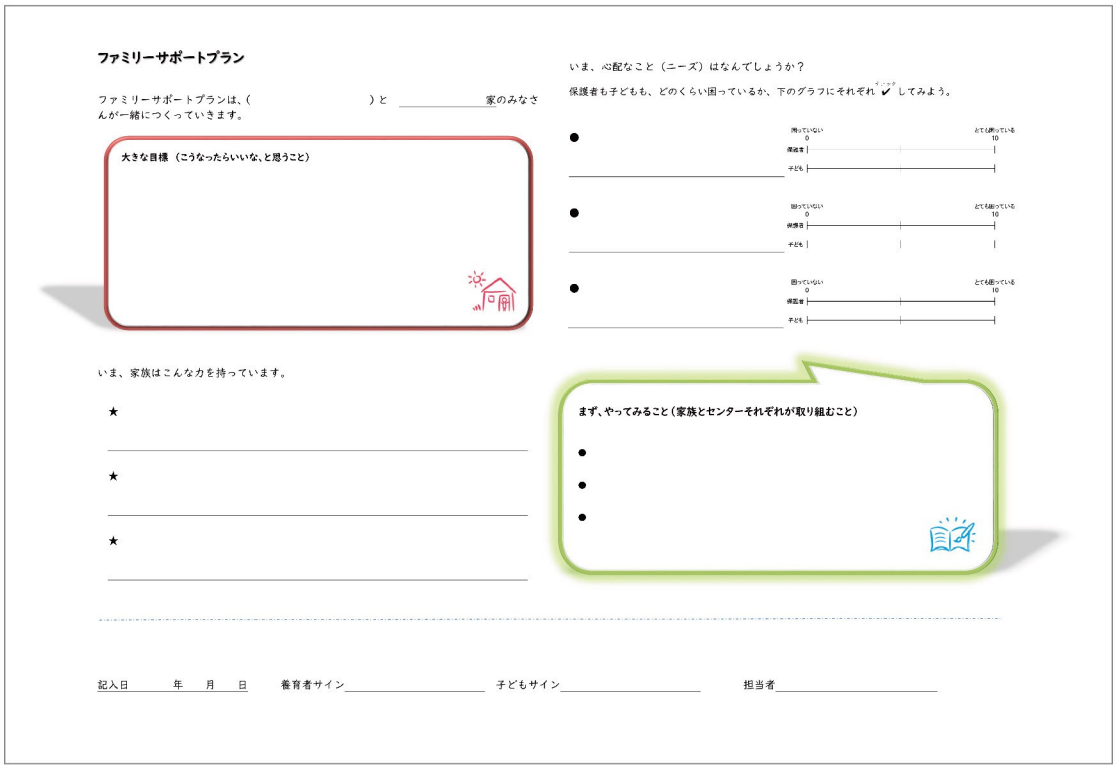
リスク時の対応を、強みとニーズへの支援とは区別して意識しておけるよう、現時点の「安心スケール（家族分離の必要度）」をチェックし、リスクのサインとリスクが増大した際の対応をシミュレーションしておきます。

⑤ 家族と共有する具体的目標

「1～3年後に、家族がこうなってたらいいな」という「大きな目標」を設定したあと、その実現に向けた、「小さな目標（近い将来（3か月後～6か月後にこうなっていたらいいな）」を設定します。この目標は家族と一緒に決めます。

2 ファミリーサポートプラン

家族みんなの「こうなったらいいな」という目標と、「家族の強み」、「今困っていること（ニーズ）」、「これから取り組むこと」を家族とともに考えていく際のシートです。アセスメントが終わった時に、支援者と子どもと家族が一緒に対話しながらうめていきます。ただし、親子関係が極めて悪く、対話ができない状況の時や、子どもに共同で話し合うことの不安がある場合には、親子双方が安心感を持って話し合えるタイミングを見つけることも必要です。



ファミリーサポートプラン

ファミリーサポートプランは、（　　）と　　家のみなさんが一緒につくっていきます。

大きな目標（こうなったらいいな、と思うこと）

いま、心配なこと（ニーズ）はなんでしょうか？

保護者も子どもも、どのくらい困っているか、下のグラフにそれぞれ ✔ してみよう。

● 困っていない 0 ― とても困っている 10
保護者
子ども

● 困っていない 0 ― とても困っている 10
保護者
子ども

● 困っていない 0 ― とても困っている 10
保護者
子ども

いま、家族はこんな力を持っています。

★

★

★

まず、やってみること（家族とセンターそれぞれが取り組むこと）

●

●

●

記入日　　年　　月　　日　　養育者サイン＿＿＿＿＿＿　子どもサイン＿＿＿＿＿＿　担当者＿＿＿＿＿＿

3 支援資源リスト

アセスメント項目ごとに、どのような支援方法があるのかをリスト化しました。地域によって支援資源は異なりますので、各地域で作成し、支援プランを立てる時の参考にしてみてください。

●家族の強みとニーズに応じた支援方法

1. 子どものカ		支援機関
支援方法	●子どもに対して ・各種発達検査・心理検査 ・カウンセリング・プレイセラピー（自己表現の促進、心の整理、認知行動の修正） ・トラウマケア ・ソーシャルスキルトレーニング（対人関係スキル、怒りのコントロール等） ・ライフスキルトレーニング （金銭管理、時間管理、ストレスマネージメント、日常生活スキル等 自立支援） ・心理教育（衝動、トラウマ、親の精神疾患、性教育） ・学習支援（公営、民営） ・メンタルフレンド	・児童家庭支援センター ・児童相談所 ・医療機関 ・訪問看護 ・療育センター ・障害基幹相談支援センター ・発達障害支援機関 ・計画相談事業所 ・放課後等デイサービス ・ショートステイ実施施設 ・就労移行支援事業所 ・若者ハローワーク ・学習支援機関
	●養育者に対して ・子どもの特性に応じた関わり方の見直し・ペアレントトレーニング ・心理教育（アタッチメント、発達、発達障害、思春期、衝動、トラウマ、性教育） ・カウンセリング ・環境調整（家庭内の構造の見直し） ・親子関係再構築	
	●その他関係機関との連携 ・関係機関との役割分担 ・園・学校などとの検査結果の共有 ・園・学校での環境調整（関りの工夫、構造化等） ・手帳取得支援 ・障害福祉サービスの利用(放デイ、ショートステイ、療育) ・就労移行支援 ・養育機能の補完（園、学校等との連携による発達支援、生活力、社会性、居場所の補完）	
2. 基本的養育		支援機関
支援方法	・養育支援訪問事業（家事育児の相談助言　＊期間限定） ・養育支援訪問事業（家事ヘルパー　　＊期間限定） ・要保護児童支援対策地域協議会での連携支援	・区役所
	・母子生活支援施設の利用 ・市営住宅などの住宅支援	
	・子ども食堂・フードバンクの活用 ・メンタルフレンド（学習・遊び支援） ・養育の見守り	・社会福祉協議会 ・児童相談所 ・民生員児童委員
	・障害福祉サービスの利用（介助サービス）	・障害基幹相談支援センター
3. 親子関係		支援機関
支援方法	・ペアレントトレーニング （肯定的な関係の構築；肯定的な注目、話の聴き方、明確な指示の出し方等） ・親のストレスコントロール ・心理教育（遊び、余暇について） ・親子関係再構築 ・家族関係の調整（家族合同会議のサポート） ・アタッチメント対象の補完（園、学校、親族等との連携）	・児童家庭支援センター ・児童相談所 ・医療機関
4. 暴力を使わないコミュニケーション		支援機関
支援方法	・一時保護 ・家族再統合プログラム ・親の子どもへの関りの見直し（「親子関係」の支援と同じ） ・警察介入・少年サポートによる訪問 ・子どものカを高める介入（「子どものカ」の支援と同じ）	・児童相談所 ・児童家庭支援センター ・警察 ・少年サポート ・医療機関
5. 心理社会的安定 （夫婦関係・親族関係・経済状況・親の状態）		支援機関
支援方法	・生活保護・就学援助 ・医療的ケア・医療機関との連携 ・訪問看護 ・家族療法・カップルカウンセリング ・住環境の調整 ・障害福祉サービスの利用（ヘルパー等） ・地域の見守り	・区役所 ・医療機関 ・民生委員 ・児童家庭支援センター ・障害基幹相談支援センター ・民生員児童委員
6. 子どもへのしつけ・教育		支援機関
支援	1. 3. に同じ	

5 アセスメントシートの記入法

以下のケースを仮定して、アセスメントシートと支援プランの記入例と特徴をみてみましょう。

▼ 仮想ケース ▼

母、継父、中１男児、小６女児、小３男児、年長女児の多子世帯ステップファミリー。
相談主訴は、中１男児の不登校傾向、家庭内暴力。
母・継父からの暴言・暴力あり、小６、小３の子は一時保護歴あり。
母は、DV の影響による精神症状があり精神科通院中。
特に、中１男児と母の関係が不良で、子どもから母・継父への暴言暴力、継父から子への暴言・暴力あり。

5-①. アセスメントシートの記入法【 子どもの力 】

発達特性や情緒行動上の問題を含む心理的側面、身体的側面、家族関係・友人関係などの対人関係やソーシャルスキルを含む社会的側面について尋ねています。例えば、発達特性があったとしても、日常生活に支障がなければ「強み」と考えます。

1 ニーズか強みにどの程度該当するか、頻度や程度を１０段階で評価し、ビジュアルスケールに✔をします。支援後は、○で再記入します。

2 非該当・未確認の場合は「非・未□」欄に✔をつける。

3 ★項目のニーズが高い(4以下) 項目が複数ある場合はハイリスクの可能性に注意する。

Ⅰ. 子どもの力

まったくない=0、時々ある=5、日常的にある=10
No（ニーズ）　（強み）Yes

		非該当 未確認	0	5	10	ハイリスク ??
(1) ★	日常生活や学習面に支障のある、知的発達の偏りや特性（言葉での理解・コミュニケーションの苦手さ、視覚認知の不器用さ、興味関心の偏り、衝動性、注意散漫さなど）がない	□		✔		□
(2) ★	家族との良好な人間関係がある	非・未 □	✔			☑
(3)	友達との良好な人間関係がある	非・未 □		✔		
(4)	日常生活や学習面に支障のある身体疾患や身体的不器用さがない	非・未 □		✔		
(5)	年齢に応じたソーシャルスキルが身についている	非・未 □		✔		
(6)	情緒・行動上の問題（激しいかんしゃく、精神不安、万引き、金品持出など）がない	非・未 □	✔			
(7)	養育者以外の安心して頼れる大人がいる（保育士、担任、近所の人、親戚など）	非・未 □	✔			
(8)	国籍、宗教など、自分の文化的アイデンティティを受け入れている	非・未 ☑				

特記事項
ニーズの高いものや、注目すべき強みについて、状況や頻度などを記載してください
○月から家族関係がさらに悪化
学校での適応はよく、友人関係は良好。中1、小6の子どもは実父からの暴力を受け、MoへのDVも目撃している。

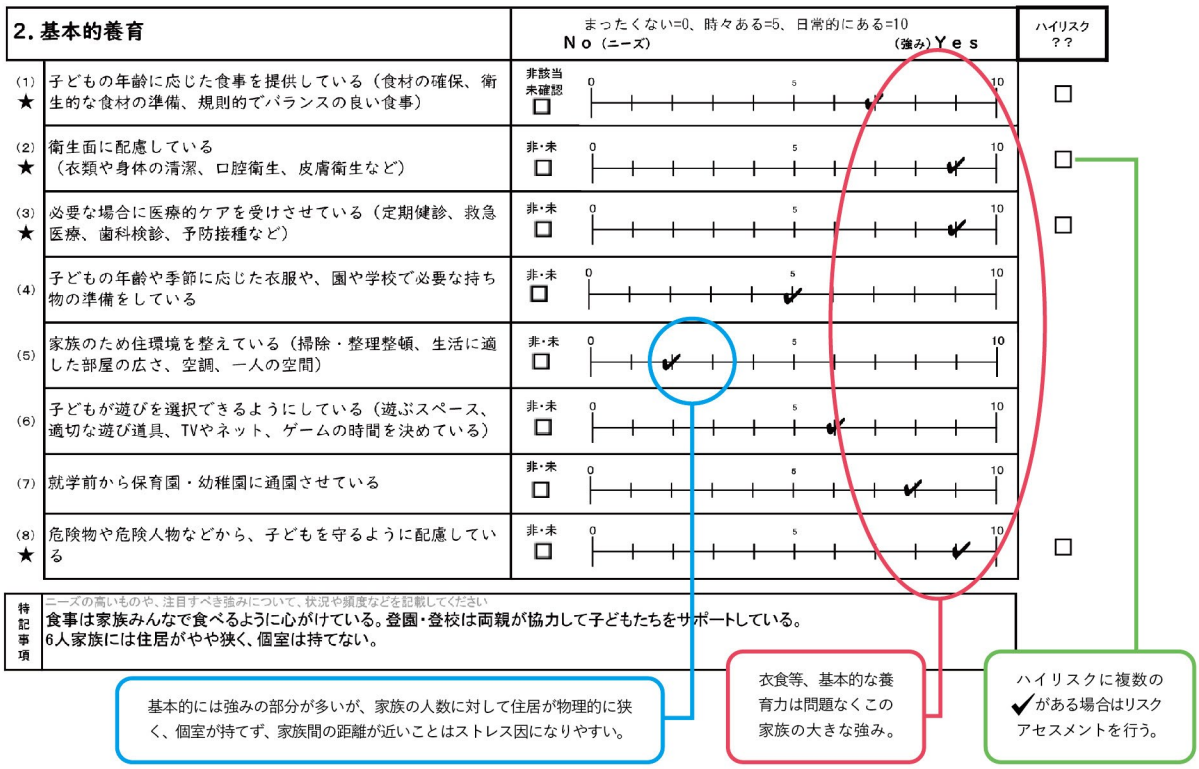
4 ④ハイニーズ、ハイストレングス（強み）の項目は、場面、頻度、程度などの具体的内容を特記事項に記載する。

家族関係不良、激しいかんしゃく、頼れる大人がいない(居場所がない)というニーズあり。

主訴に不登校傾向があるものの、発達特性の偏りはなく、友人関係が良好で、日常生活には大きな支障がないという強みがある。

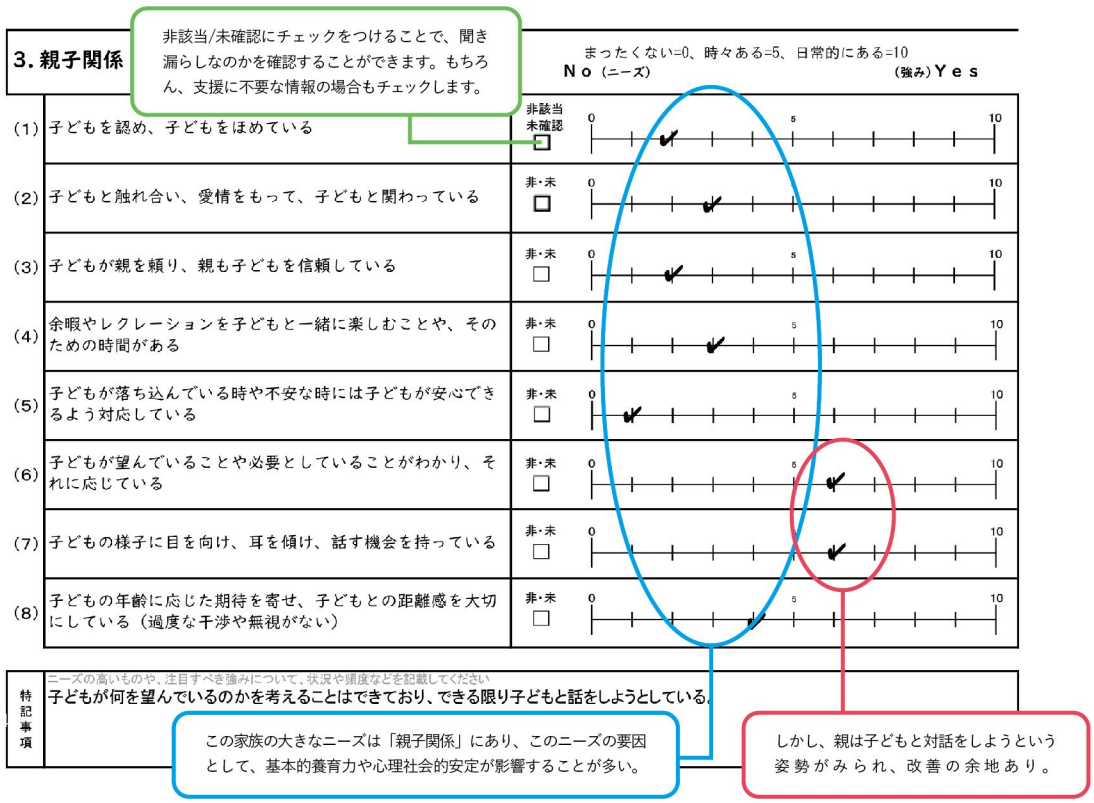
5-②. アセスメントシートの記入法【 基本的養育 】

基本的な養育や子どもの保護のための日常生活のスキルや、居住環境や遊びの環境を整えているかについて尋ねています。



5-③. アセスメントシートの記入法【 親子関係 】

ボンディング、アタッチメントの側面から、子どもに安心感を与えることができる親子の肯定的な関係があるか、肯定的な関係を築くためのスキルや子どもとの適切な距離感などについて尋ねています。



5-④. アセスメントシートの記入法【暴力を使わないコミュニケーション】

親子間、きょうだい間の暴力的なコミュニケーションの有無や、暴力を使ったしつけや子どもへの対応、メディアや性表現などの制御について尋ねています。

4. 暴力を使わないコミュニケーション		日常的に暴力がある=0、時々ある=5、まったくない=10 No（ニーズ）　（強み）Yes	ハイリスク??
(1)★	親から子どもへの暴力がない	非該当 未確認 □ 0 ✔ 10	□
(2)★	子どもへの暴言がない	非・未 □ 0 ✔ 5 10	☑
(3)★	子どもの前での、養育者間の暴言・暴力がない	非・未 □ 0 ✔ 5 10	□
(4)	子ども間の暴言・暴力、子どもから親への暴言・暴力がない	非・未 □ 0 ✔ 5 10	
(5)	子どもをからかって笑ったり、バカにしたり、恥をかかせるような言動がない	非・未 □ 0 5 10	
(6)	暴言・暴力を使わないしつけ・指導をしており、子どもの暴力的な言動に対しても暴力を使わずに対応している	非・未 □ 0 ✔ 5 10	
(7)	暴力シーンや過激な性表現など、過剰な刺激のあるメディアや性的な状況を制御・制限している	非・未 □ 0 5 ✔ 10	
(8)	子どもの意思を無視したり、子どもの限界を超えた課題を出していない	非・未 □ 0 5 ✔ 10	
特記事項	ニーズの高いものや、注目すべき強みについて、状況や頻度などを記載してください。親の片方に暴力があっても、片方が子どもを守ろうとしているか、などポジティブな側面があれば、記載する。 親子双方に暴言・暴力があり、暴言は毎日、暴力は週に1回程度みられる。		

ハイリスクに複数の✔がある場合はリスクアセスメントを行う。

他の項目と異なり、暴力の有無については、その頻度だけではなく、程度も特記事項に記載していく。

主訴に家族内での暴力があがっており、親から子への暴力もみられるが、頻度や程度をみると、緊急性は高くないと考えることができそう。

5-⑤. アセスメントシートの記入法【心理社会的安定】

経済状況、保護者自身の課題（身体疾患、精神障害、被虐待歴等）、支援環境について尋ねています。

5. 心理社会的安定 （夫婦関係・親族関係・経済状況・親の状態）		まったくない=0、時々ある=5、日常的にある=10 No（ニーズ）　（強み）Yes	ハイリスク??
(1)★	安定した収入があり、家計をやりくりしている （定期収入や金銭管理）	非該当 未確認 □ 0 ✔ 5 10	□
(2)	親（養育者）同士や親とパートナーとの良好で安定した関係がある（関係性への満足度、家庭内の役割分担、別居中でも定期的な交流がある）	非・未 □ 0 5 ✔ 10	
(3)★	養育者の発達特性、生育歴、精神疾患や身体疾患、嗜癖による養育への影響がない	非・未 □ 0 ✔ 5 10	□
(4)	養育者が自身の心身の健康を適切に管理している （定期的な健診、定期的な通院）	非・未 □ 0 5 ✔ 10	
(5)	養育者と子どものための部屋やスペースが適度にある （高齢児の場合、子どもの寝室があるか）	非・未 □ 0 ✔ 5 10	
(6)★	他者を信頼することができ、社会的支援とのつながりがある （園や学校との協力、親族や友人からの養育支援、近隣住民との交流、支援機関との連携など）	非・未 □ 0 5 ✔ 10	□
(7)	（養育者が外国籍の場合）外国籍であることを理由に、地域で差別を受けることはない。また、宗教や文化的な活動に子どもが適切に参加できている。	非・未 ☑ 0 5	
特記事項	ニーズの高いものや、注目すべき強みについて、状況や頻度などを記載してください 母の精神疾患により、父のみの収入となり、経済的にはギリギリの生活。 父母間の関係は良好。母は、精神疾患があるものの、きちんと通院はできている。支援機関への通所も定期的にできている		

母の精神疾患は養育に影響しており、経済的にも厳しい状況であるが、父母間の関係が良好であること、医療機関や支援機関とつながっていることは強みであり、ニーズをカバーしている部分もある。

5-⑥. アセスメントシートの記入法【 しつけ・教育 】

子どもへのしつけや教育に関する子どもへの関りについての項目です。家庭内での役割、スマホの使い方や対人関係の取り方、登園・登校のサポート、家庭外の習い事等について尋ねています。

6. しつけ・教育		まったくない=0、時々ある=5、日常的にある=10 No（ニーズ）　（強み）Yes
（1）	子どもが理解できるように、わかりやすく説明している	非該当 未確認 □
（2）	言葉や運動能力、感覚の発達を促し、登園・登校や学習のサポートをしている	非・未 □
（3）	子どもが恐れを感じている時に、気持ちを共有しながら、克服できるように導いている	非・未 □
（4）	子どもの個性と自己決定を尊重している	非・未 □
（5）	年齢に応じた子どもの交友関係をみとめ、適切な連絡方法を保障している	非・未 □
（6）	子どものプライバシーを尊重している	非・未 □
（7）	家庭での子どもの役割や参加を認めている（過重な家事労働をさせていない）	非・未 □
（8）	子どもを地域の社会活動に参加させている（子ども会、習い事など）	非・未 □
（9）	TV、スマホ、ゲームなどの使用ルールがあり、そのルールが守られている。	非・未 □

特記事項	ニーズの高いものや、注目すべき強みについて、状況や頻度などを記載してください 長男、長女は母の代わりに、風呂の準備、洗濯、朝食づくりなどを行っている。 年長児の次男には、やさしく声をかけることができている。

子どもへの家事負担が大きく、友人と遊ぶ時間や勉強の時間が取れていない状況あり。金銭的にも厳しいため、習い事もしていない。

子どもの交友関係については認めており、スマホやゲーム等のルールも、大まかではあるが守ることができている。

＊対象となるきょうだい児が複数いる場合は、必要な部分（例えば、１．子どもの力、３．親子関係など）は子どもごとにつけてみてください。

5-⑦. 家族の強みとニーズにもとづく支援プランの記入法

アセスメントシートを付け終わったら、こちらの支援プランに記入していきます。
記入は、左の 1 → 5 の番号の順に記入していきます。

●家族の強みとニーズにもとづく支援プラン（支援者記入）

記入日＿＿＿年＿＿＿月＿＿＿日

記入順

養育者氏名（　　）子どもの名前（　　）担当者（　　）

4 家族のテーマ

「～の問題を抱えた･･･な家族」「～な家族の･･･のケース」のような、20字程度で家族の特徴を捉えた家族のテーマを考えよう

親子双方の家庭内暴力に悩む、多子家庭ステップファミリー

3

おおきな目標：1～3年後に「こうなったらいいな」と思う家族の状態

家族全員が安心して一緒に暮らしている

ちいさな目標：3か月後に「こうなったらいいな」と思う家族の状態

養育者の目標　子どもの暴言･暴力に対して、暴力的ではない関りをする
子どもへの肯定的な関りを増やす

暴力がなくなっている。暴言の頻度が週1以下に減っている

1

A.家族の強みはどこか？ すでに持っている資源は？
どんな生活スキルはあるのか、誰とつながっているのかなど具体的に書いてみよう

・食事、洗濯、掃除等は家族で協力している。
・母が子どもの様子に目を向け、話をする時間を持とうとしている。
・不登校傾向にあるが、友人関係は良好

B.家族のニーズはどこか？ 家族の困り感が高いもの、支援者から見てニーズがあると感じるものを具体的に書こう

・子どもから親やきょうだいへの暴言･暴力
・継父からの暴言･暴力
・物理的なスペースが狭く、家族間の距離が近い
・肯定的に認め合う親子関係がない
・過重な家事労働が子どもの負担になっている

a.その要因は何か？（強みを支えているものは何か?）
「強み」に✔してある項目が、別の「強み」を支えていないかもみてみよう

・母は定期的に精神科へ通院し相談をしている
・父母の関係が良好
・子どもの発達特性のバランスが良い

b.その要因は何か？ 「ニーズ」に✔がついている項目が要因になっていないか？何によってBのニーズが起こっているのかを考えてみよう

・暴力を使わないしつけの未学習または、親の暴力的な関わりをモデリング
・母の精神疾患による精神的余裕のなさ
・経済的余裕のなさ

C.ニーズはあるが、その中にある強みはなにか？ 小さいけれどできてるエピソードに注目してみよう

きょうだい関係はケンカもあるが、仲よく一緒に遊んだり、下の子のお世話をすることもある。
家族で一緒に食事をしたり出かけたりを楽しむこともある

2

「強み」を活かす・増やす支援

養育者　家事援助の支援により、親子で関わる時間を増やす

子ども　家庭外の良好な対人関係の量を増やす（居場所をつくる）

「ニーズ」を減らす･増やさないための支援

養育者　・暴力を用いないしつけ･肯定的な親子関係をつくるためのペアトレ
・市営住宅の申込

子ども　怒りのコントロール/暴力を用いないコミュニケーションの学習

安心スケール　要家族分離← 0 5 ✔ 10 →分離不要

5

リスクのサイン

親子双方の暴力頻度が週1回以上に増える。

リスク増大時の対応

・児相通告
・母の入院、または子どもの一時保護

1 強みとニーズをアセスメント

アセスメントシートをつけて、この家族の「強み」と「ニーズ」を把握したら、その「強み」や「ニーズ」がどこから来ているのかを考えます。強みとニーズは重複したり、ある時は強みがニーズになることも、ニーズが強みになることもあります。「強み」と「ニーズ」のどちらも一目で見える形にしておくことで、次の支援を考えるステップにつながります。

2 支援プラン立案

どの項目に「強み」や「ニーズ」があるのかを確認したら、次のページの支援リストをみながら、どのような支援が可能か考えます。どのような支援資源があるかは、その地域によって差がありますので、ご自身の地域にどのような支援資源があるかを追加してみましょう。

3 大きな目標・小さな目標

いきなり大きな目標をたてても、高いハードルを越える気力がなくなっては家族の力は発揮されません。少し頑張れば達成可能なちいさな目標をたて、スモールステップで取り組むことが大切です。

4 家族のテーマ

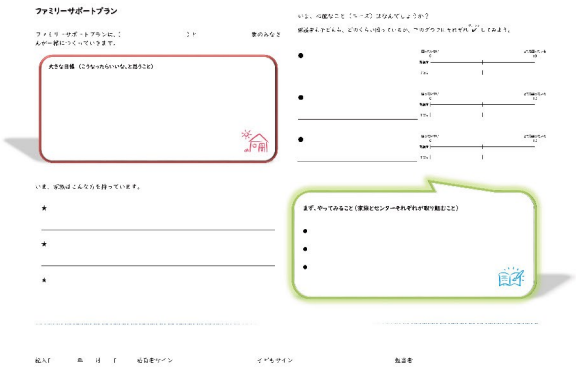
「～の問題を抱えた･･･な家族」「～な家族の･･･のケース」のような、20 字程度で家族の特徴を捉えた家族のテーマを考えます。家族のテーマを簡潔に表現することで、そのケースの全体像をざっくりとつかむトレーニングにもなります。

5 安心スケール

既存のアセスメントツールは、虐待リスクのアセスメントと、ニーズのアセスメントが区別なく含まれていました。虐待ケースであっても、家族分離にまではいたらない微妙なラインの家族を支援するときに、上記のアセスメントでは、虐待リスクが強調されてしまうため、ニーズへの支援に焦点をあてにくいという課題を感じていました。ここでは、「安心スケール」を用いて、リスク増大時のシミュレーションをしておくことで、「強みとニーズ」にもとづく支援の展開に集中することができます。

5-⑧. ファミリーサポートプランの使い方

まずは、事前に親子別々に次の項目について話を聴き、その後、子どもと親と合同で話し合います。学校などの関係者協議で使うこともできます。どこから記入するかは、家族が取組み易いところを家族に決めてもらいます。



① おおきな目標

「こうなったらいいな」という家族像を共有します。親子それぞれで違う場合はどちらも記載します。

② いま困っていること・心配なこと（ニーズ）

「いま困っていること・心配なこと（ニーズ）」を１０段階のスケールで親と子どもそれぞれにつけてもらいます。親と子で困り感が共有されている時もあれば、親は困っていても子どもは困っていない、またはその逆の場合もあり、家族内で困り感を視覚的に共有することができます。

③ 家族の力

今の家族のいいところ、できているところを、子どもや親から出してもらい。支援者からみた家族の力についても伝えます。

④ まずやってみること（支援プラン）

ニーズを解消するために、できることをリストアップし、これから取り組む支援について具体的に確認していきます。

6 アウトリーチで使えるツール

家族や学校にアウトリーチ（訪問支援）をする時には、いくつもの遊び道具を大きなカバンに詰めて持ち運びます。家庭訪問して話すだけよりも、こういうツールがあることで子どもとの関係も築きやすくなり、親子関係再構築のために、親子合同で遊ぶこともできます。親子合同で遊んだ後には、親子それぞれで振り返る時間を持ちます。

① ファミリーボード

家族が今どんな状況か、どんな距離感にあるのかを視覚的に尋ねながらコミュニケーションをとります。まずは、「今の家族の状態」を尋ね、その後「こうなったらいいな」という家族の状態を尋ねます。棒を切って目を書いただけのハンドメイドです。どんな大きさの棒を選ぶのか、棒と棒の距離感、目の向きなどで家族の関係性が視覚的にわかります。

② 創作系ツール

スケッチブック、色鉛筆にクレヨン、折り紙や紙粘土、塗り絵など、どこにでもある創作道具です。作業をしながらだと、緊張の高い子どももコミュニケーションを取りやすくなります。

③ 双方向コミュニケーションを促すツール

言葉のキャッチボールが難しい親子でも、綿や紙風船、ゴム風船でのキャッチボールはできます。綿テニスは、手や座布団に乗せた綿を口で吹いて相手に飛ばし、相手はそれをキャッチする遊びです。狭い室内でも楽しめます。

④ 穏やかな競争ゲーム

トランプやウノなど、馴染みのあるゲームだけではなく、子どもも大人と対等に勝負できるゲームは、家族で盛り上がれます。親子が激しい競争になりすぎないゲームを選択することも大事ですが、子どもが大人に勝つことができるゲームは、子どもの自己肯定感の向上にもつながったり、親が子どもを褒める機会にもなります。

⑤ 協力ゲーム

協力したり、話し合ったりしながらゴールを目指す遊びは良い関係を築きやすくなります。ルールが簡単で、低年齢の子どもから大人まで楽しめるものを使います。右下の写真は、サイコロを転がして一緒にお話をつくっていく遊びです。支配 - 被支配関係や競争関係ではない協力的で対等な関係を遊びの中では体験できます。

⑥ 気持ちを共有できるゲーム

勝負をしながら、ドキドキやワクワクを共有しやすいゲームです。黒ひげが飛んだ時、ジェンガが崩れた時、目を合わせて驚きや楽しさを共有することができます。

楽しい遊びを通すと、信頼関係を築きやすく、親子関係をよくしたり、子どもの自己肯定感を高めたりすることもできます。普段は怒ったりケンカしたりが多い親子も、一緒に遊ぶ時には思わず笑顔が出ることもあります。

7 課題と展望

このアセスメントツールや支援プランシートは、市区町村や児童家庭支援センターなどの様々な相談機関で共通認識を持つためのツールとして活用するだけではなく、支援できる人材を育成する観点から活用いただくこともできると考えています。

複雑で重層的な課題を抱える家族には、包括的なアセスメントとともに、様々な機関がネットワークをつくり、現状や目標など共通の認識を持って連携していくことが重要であり、今後は、多機関と共通認識を持つためのツールとしてさらに発展させていくことも必要だと考えています。このツールを使った研修会などを通して関係機関との連携ネットワークをつくり、共通の認識をもった支援を行うことを引き続き目指していきます。

さらに、SOS 子どもの村では、現在「子どもの村福岡」におけるショートステイ利用が急増しており、特に区役所がすでに支援している要支援家庭の利用が急増しています。このような、ショートステイ利用家族への継続的な支援やアフターフォローが課題となっていますが、その際にも今回開発したアセスメントツールを活用していきたいと考えています。

これからも多くの皆さまからご意見をいただきながら、子どもの権利にもとづく当事者主体の家族支援の手法を模索していきたいと考えていますので、どうぞこのツールをご使用になったご意見ご感想をお寄せいただければ幸いです。

8 ダウンロード資料

・家族の強みとニーズアセスメントシート

・家族の強みとニーズにもとづく支援プラン

・ファミリーサポートプラン

・アセスメント項目別の支援資源リスト

QR コードを読み取ってダウンロードできます。

https://www.sosjapan.org/topics/publication/153728/

（参考資料）

・在宅支援共通アセスメント・プランニングシート（2018）

No child should grow up alone

このガイドブックは、大和証券「輝く未来へこども応援基金」から助成を受けて作成しています。

【お問い合わせ先】
福岡市子ども家庭支援センター「SOS子どもの村」
TEL：092-737-8655 ／ FAX：092-737-8665
MAIL：family-support@sosjapan.org

SOS子どもの村JAPAN　WEB：https://sosjapan.org